



# いろいろな助詞

ここまででは、主語・目的語・所有を表す助詞を紹介しました。ここでは、それ以外の主要な助詞の、日本語との対応を紹介します。

表1. 日本語の助詞と、しまむにの助詞の対応

主な表すもの	日本語	しまむに	例文
主題	は(わ)	わ	(1) たろう= <b>わ</b> わん うとう= <b>で</b> やー 太郎= <b>は</b> 私の 弟= <b>だ</b>
付加	も	む	(2) はなこ= <b>む</b> うたん= <b>ど</b> ー 花子= <b>も</b> いた= <b>よ</b>
間接目的語	に	に	(3) たろう= <b>が</b> じろう= <b>に</b> うむ くりたん 太郎= <b>が</b> 次郎= <b>に</b> 芋 あげた
共同の相手	と	とう	(4) はなこ= <b>と</b> う おーたん 花子= <b>と</b> 会った
手段・原因	で	し	(5) ひに= <b>し</b> いじゃん 船= <b>で</b> 行った
動作の場所		にてい	(6) うみ= <b>にてい</b> あしだん 海= <b>で</b> 遊んだ
移動の着点	へ	ち	(7) なふあ= <b>ち</b> いじゃん 沖縄= <b>へ</b> 行った
動作の向かう先			(8) いぬ= <b>ぬ</b> はなこ= <b>ち</b> ふいたん 犬= <b>が</b> 花子= <b>に</b> ほえた
場所・時間	に	に	(9) とーぐら= <b>に</b> うん 台所= <b>に</b> いる
移動の起点			(10) やまとう= <b>から</b> むどうたん 大和(本州)= <b>から</b> 帰った
通る場所	を	から	(11) みち= <b>ぬ</b> まんなか= <b>から</b> あくな 道= <b>の</b> 真ん中= <b>を</b> 歩くな
比較対象	より	よーか・よか	(12) しし= <b>よーか</b> 'ゆー かみぶしゃん 肉= <b>より</b> 魚 食べたい
範囲の終わり	まで	んたべ・んたに	(13) むかし= <b>わ</b> わどうまい= <b>んたべ</b> あちゃん 昔= <b>は</b> 和泊= <b>まで</b> 歩いた

※ このテキストでは、他の言葉と区別するために、助詞の前に「=」をつけています

(12)「'」は、小さい「つ」のように、のどをしめる音を表す



日本語の助詞と、しまむにの助詞は、ほとんどが1対1で対応しますが、1つ1つの助詞が表す意味の範囲がちがうものもあります。

## 1. 日本語の「で」と、しまむにの「にてい」「し」

日本語の「で」は、「船で行った」「病気で休んだ」のように手段や原因を表す用法も、「家で寝た」のように、動作をする場所を表す用法もあります。

一方、しまむには、(5)「ひにし いじゃん(船で行った)」「びょうきし やすだん(病気で休んだ)」のように手段や原因を表すときには「し」で表しますが、(6)「うみにてい あしだん(海で遊んだ)」「やーにてい にぶたん(家で寝た)」のように、動作の場所を表すときには「にてい」を使います。

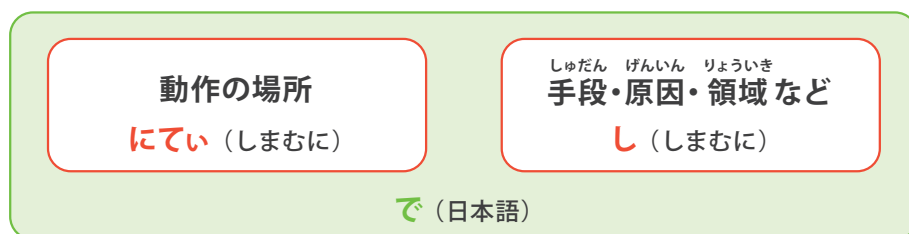


図1. 日本語の「で」、しまむにの「にてい」「し」の意味範囲

## 2. 日本語の「から」「を」と、しまむにの「から」

日本語では「本州から帰った」のように移動の起点を表すときには「から」を使い、「道の真ん中を歩く」のように、空間的な経過域を表すときには「を」を使います。

しまむにでは、そのどちらをも「やまとうから むどうたん(大和から帰った)」「みちぬ まんなかから あくな(道の真ん中を歩くな)」のように「から」で表すことができます<sup>1</sup>。

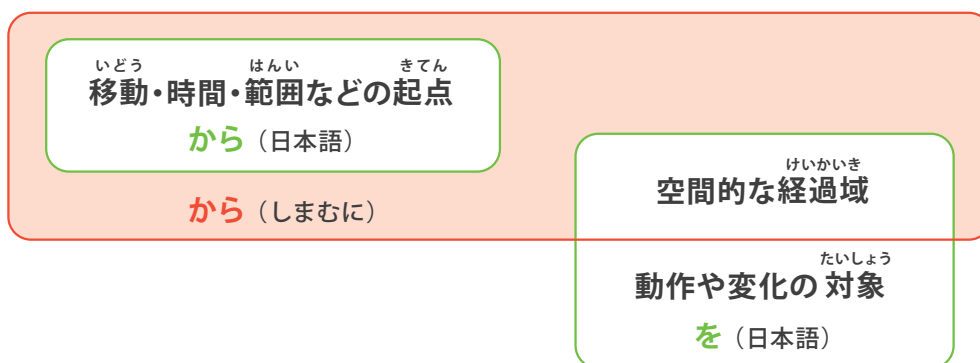


図2. 日本語の「から」「を」、しまむにの「から」の意味範囲

<sup>1</sup> しまむにでは「みちぬ まんなか あくな」のように、目的語に何も助詞を付けず表現することもできます。助詞を何もつけないことは、日本語の「を」に対応する用法です。詳しくは、4-1「主語・目的語を表す助詞」を見てください。

### 3. 日本語の「に」「へ」と、しまむにの「に」「ち」

日本語の「**に**」は「家**に**いる」「3時**に**なった」など、<sup>そんざい</sup>存在の場所や時間を表す用法も、「犬が花子**に**吠えた」のように、動作の向かう先を表す用法もあります。

一方、しまむにでは、「やー**に** うん(家**に**いる)」「さんじ**に** なたん(3時**に**なった)」のように、<sup>そんざい</sup>存在の場所や時間を表す時には「**に**」で表しますが、「いぬぬ はな**ち** ふいたん(犬が花子**に**吠えた)」のように、動作の向かう先を表す時には「**ち**」で表します。

しまむにの「**ち**」は、この他に「なふあ**ち** いじゃん(沖縄へ行った)」のように、<sup>いどう</sup>移動の着点を表す用法もあります。これは、日本語では「**へ**」がカバーする意味です。

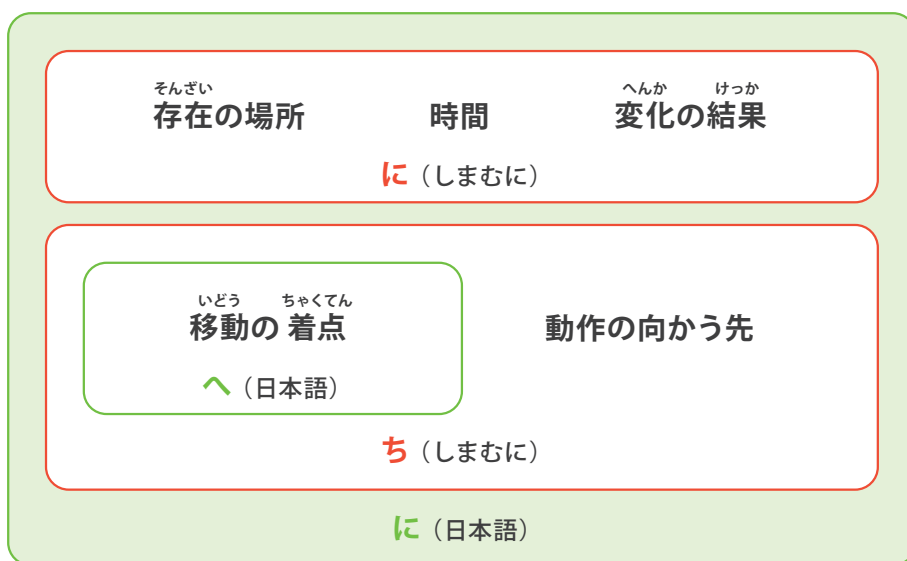


図3. 日本語の「へ」「に」、しまむにの「に」「ち」の**はんい**意味範囲

練習問題

表1を参考にしながら、下線部の助詞をしまむにに直してみましょう。

1. 私<sup>わたし</sup>は花子です。東京から飛行機<sup>じょし</sup>で来たよ。

わぬ( )花子でいろ。

東京( ) 飛行機( ) きちゃんどー<sup>1</sup>。

2. 今日<sup>けふ</sup>は、ワンジョビーチへ行ったよ。

ひゅー( )、ワンジョビーチ( ) いじゃんどー。

3. 海<sup>うみ</sup>で泳いで、貝<sup>かい</sup>も拾ったよ。

海( )をういじ、貝( ) ひゅーたんどー。

4. 3時<sup>さんじ</sup>に、家<sup>いへ</sup>に帰ったよ。

3時( ) やー( ) むどうたんどー。

5. おじいちゃん<sup>おじいちゃん</sup>と、おばあちゃん<sup>おばあちゃん</sup>に、貝をあげたよ。

じゃーじゃ( ) あじ( ) 貝 くりたんどー。

6. えらぶの海<sup>えらぶのうみ</sup>は、東京の海<sup>とうきょうのうみ</sup>よりきれいだったよ。

えらぶぬ海( ) 東京ぬ海( ) きらさ／ちゅらさ<sup>2</sup> あたんどー。

<sup>1</sup> 西部方言は「きゃーぶたん」、東部方言は「ちゃーぶたん」です。

<sup>2</sup> 西部方言は「きらさ」、東部方言は「ちゅらさ」です。